

アカザエビの深層水養殖産業基盤開発研究

(深層水養殖産業基盤開発研究)

(予算区分 県単独 研究期間 平成平成 19~20 年度)
担当：利用普及部深層水研究室

【研究の背景とねらい】

- ・本研究は、駿河湾深層水を利用した産業の創造・確立と地域の活性化を目指しています。
- ・アカザエビは、体長 20cm ほどの大型の赤いエビで、水深 200~400m の砂泥底に生息する深海性種です。生食、フランス料理、寿司、パエリア等、高級食材として利用され、人気が高く、海外ではスキャンピあるいはロブスターと呼ばれ、世界的食材です。
- ・アカザエビ等は養殖起業有望種であり、今までの研究成果により深層水利用の飼育基礎技術は確立し、特許出願しました。そこで、起業基盤の確立のために、深層水を利用したアカザエビ等の甲殻類の量産システムの開発を目指します。



アカザエビ



カプセルに収容された幼生

種名	工数	孵化数	ふ化から孵化までの生残率 (%)	ふ化から孵化までの所要日数
ノルウェーロブスター Nephrops norvegicus	3	1	0-7.3	約1ヶ月
ニュージーランドロブスター Metanephrops challengeri	1	1	0	3~4日
ミナミアカザエビ Metanephrops thomasi	2	1	10	4日
サガミアカザエビ Metanephrops sagamiensis	2	1	1	6~8日
アカザエビ Metanephrops japonicus	0	1	100	数時間

Figures 1(1972), Dickey-Galle(2000), Wear(1976), 内田ら(1973), 高橋ら(1982) 参照

卵

フレゾエア

ゾエア1~3

×

メガロバ

稚エビ

スキャンピ5種類の初期成長過程の比較(上)とアカザエビの特徴(下)

【これまでに得られた成果】

(平成19年度までの成果)

- ・ゾエア期が無いスキャンピ： 初期成長過程が既知のスキャンピの中で、本種は唯一ゾエア期無く稚エビまでの生残率が高いことが判明しました。養殖対象種として期待がもてます。
- ・簡易種苗生産技術の開発： 卵からふ化した幼生を小型のカプセルに収容して飼育することにより、高生残率で作業効率が良く作業スペースを縮小した簡易種苗生産技術を開発しました。
- ・環境向上型飼育装置の開発： 飼育容器ごとに注水し個別に大量飼育する装置を開発し、開発し、現在飼育中です。
- ・地域連携による食材評価検討会の開催等： 約3ヶ月間駿河湾深層水で蓄養したエビを、シェフ等に評価依頼すると同時に、地域関係者参加のもと食材評価検討会を開催しました。その結果、食材としての評価が高く商品としても魅力が有ることが判明し、技術移転も検討中です。

Menu

海洋深層水スキャンピのグリル
ハーブソルト、レモンとほじ



アンケート
対象メニュー

海洋深層水スキャンピのクリームスープ
カパチノバを立て



アンケート
対象メニュー

海洋深層水スキャンピのフリット
濃厚水で育てた卵白粉を添えて 魚塩味



海洋深層水スキャンピのフィッシュ
魚卵オムレツ 魚塩のソース






食材評価検討会風景(左)と試食メニュー(上)

【期待される成果】アカザエビ養殖産業の起業基盤が確立し、only one の新規産業が創造されます。

【今後の計画】量産システム開発研究続行(平成19~20年度)

(作成 平成20年4月)